

ねの御所にして二こんまる、上らうちやく、御ちの人も御まり、申のくちにて、こむ御すわ
りあり、御あふぎまるらせらるゝ、五日、五のみやのかた御れいになる、つねの御所にて二こん
まるる、六日、けふのさんだいゆきぶりてのぶる、七八日、大かく寺殿御れいになる、つねの御所
にて二こんまるる、御たる三色三かまる、めうほうおん殿御れいになる、つねの御所にて二こん
まるる、御たる三色三かまる、御あふぎまるらせらるゝ、十日、くわんばく殿秀吉豊臣十二日
にさんだい御申候はんとの御あんないあり、十二日、くわんばく殿さんだいあり、つねの御所
にて御たいめんあり、こん三こんまるる、御玄やうばんくわんばく殿八とうの宮親王智仁きくて
い殿晴季うきたのさい玄やう家秀うへすぎ勝景もり元輝利さん五秋秀三郎玄じ
う、いへやす玄じう忠秀以上十一人也略中御てんしやくにてみなく、御とほりあり、玄んくげ
しゆ廿七人、御たちをりかみにて御れい申さる、略中御玄やうばんしゆみなくたれて、く
わんばく殿八とうの宮のかたばかり御ざしきにて、玄ゆごう女御女中しゆは、御みやのれいに
御れいであり、きくてい殿、くわんじゆ寺殿、中山殿御まへに御まわりあり、きげんよくめでたしめ
でたし、

文祿四年正月一日、くわんばく殿さんだいあり、さでう所にて三こんまるる、御はいせんさねえ
だ、御てなが右中辨、御玄やうばん八とうの宮、右大じん、ぎふの中納言、やまとの中納言、びせんの
中納言なり、殿上人御はいせんなり、十一日、けふはさんだいどもあり、せいりやうでんへなり
候はぬさきに、御がくもん所にて、せいほうふんろあん御たいめん、せいそかう玄ん上申、ろあん
りうなんぐわん玄ん上申、申つぎくわんじゆじ、そののち、こ御所へならしまして、ゆぎやう上人
せいすい寺のくわん御たいめん略中六とうの上人御れい申、こ御所にて御たいめん、申つぎひ
ろはし、そののちせいやうでんへならしまして御たいめん、正ごふんどのぎでう所にて御た